

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500076		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	桃 寿 園		
所在地	奈良県橿原市北越智町345		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは緑豊かな小高い丘の上であり、各部屋の窓からは美しい四季の変化を楽しむことができます。
 地域の保育所・幼稚園・小学校・高校の皆さんや、地域の老人会やボランティアの方々との交流も多く地域に見守られ愛されています。敷地内には特別養護老人ホームと診療所があり、併設の良さを活かして特養の行事やイベントにも積極的に参加し生活範囲を広めています。また、診療所では医師による定期的な往診にて健康管理も確保されています。
 老いて、何よりの楽しみは食べる事です。当ホームではお出汁と調味料にはこだわり、献立もご利用者さんの意見を取り入れ、畑やベランダで作った野菜等も調理し、全て手作りで提供しております。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームを母体に事業所の持つ独自性を発揮して、近隣地域の自治会や老人会、学校などとの交流が盛んで地域によく溶け込んだ事業所である。管理者は職員の得意分野を發揮させることで、利用者の暮らしに潤いを与え、チャレンジ精神を引き出している。職員は担当制をよく理解し利用者が安心、安全に尊厳のある暮らしの提供に努力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成24年10月5日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域や家族との結び付きを重視し「ゆっくり・一緒に・楽しく」は一貫した揺るがぬ理念です。目につきやすい場所に掲示し、職員の自覚と意識付けをしています。	「ゆっくり・一緒に・楽しく」と解りやすい理念を事業所内に掲示し、年頭や運営推進会議で職員に抱負を語ってもらうなど常に意識したケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域老人会のカラオケやお祭り、幼稚園・小学校の運動会や高校の文化祭等、招待されるものは積極的に参加しています。また、地域のボランティアさんにおいては定期的に訪問していただき環境整備のお手伝いや門松作り等をしていただき交流を図っています。	併設施設と共に、周辺地域の自治会との結びつきは強く、世帯個々人との交流もある。学校行事やお祭りなどに参加したり、農作物の差し入れや農閑期の清掃ボランティアなど交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	桃寿園は檀原市地域包括支援センターの相談窓口でもあり認知症の相談に関しては対応をさせていただいています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議には状況報告そして、内容については職員と共に考え充実した会議になるようにと常に取り組みしております。構成員の意見や助言に関して職員は、会議録を周知し介護に活かせるようにしています。	長寿介護課、市介護相談員、住民代表、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表等の参加のもと2ヶ月に1度運営推進会議が開催されている。近況報告や新しい取り組み事項のほか出席者から要望や助言を聞いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員派遣事業を受け入れ、市の担当者に現場の実情等を積極的に伝える機会をつくっています。	長寿介護課の介護相談員によって意識的に利用者との交流が行われている。就寝前のくつろぎの様子などを観察して、安全を確認された。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会に参加し各事業所からの報告や事例を検討し正しく理解しケアに取り組んでいます。	2ヶ月に1度開催される身体拘束廃止委員会に職員が参加し、事業所に持ち帰ってフィードバックし注意喚起している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内・園外研修にも積極的に参加し防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の利用者様は後見制度を活用されています。園内研修でも成年後見制度について学ぶ機会を設けています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を要する事を了解の上説明には十分な時間を充てています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回市の介護相談員2名の来訪により、利用者が外部に発信できる機会を設けています。また、家族様の面会や運営推進委員会での家族様の要望や意見等聴かせていただき運営に反映させていただいています。	介護相談員が定期的に来訪し、利用者の意見集約をしている。家族来訪時や運営推進会議では要望を聴くように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別な機会は設けていませんが申し送りや、休憩時間の会話の中から意見や考えを引き出したリ、ケア会議の中で職員の意見等を聞くように心がけています。	日ごろの会話やケア会議では職員が拘りなく意見が言えるように管理者は常に心がけている。又運営者も1日1度は事業所を訪れ、職場の特性を認識したうえで、職員にストレスが溜まらないように注意している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態の把握や勤務がハードにならないように、また、ストレスが溜まらないように調整しコミュニケーションを図っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修会の発表等積極的に行ったり、随時ケア会議を開催し職員の質の向上を図っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型連絡会等参加し同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをきっちり捉え本人や家族のニーズに、応えられるように計画を立て信頼関係が構築できるように努めております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に要望や意見を聞き関係づくりに心がけています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを十分に聞きアセスメントをとりサービスの提供に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく過ごせるように、関係づくりに努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを尊重し共に理解し支援できるように努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の訪問には積極的に受け入れ憩いの場所の確保に努めています。	地域からの利用者が多く、家族同伴で買い物に出かけたり、兄弟、いとこ、友人が訪ねて来られたりしている。老人会のカラオケにボランティアの方が誘ってくれたり、農産物の差し入れがあったりと、新しい関係継続の支援もできている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	強制ではなく、日中はできるだけフロアーで過ごしていただける雰囲気づくりに努めています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情からその人の思いを汲み取り時にはカンファレンスを開催し個人を尊重した支援に努めています。	カンファレンスで家族の気持ちを支え、利用者の生活歴等を詳細に把握して個々人の意向の掌握に努めている。又思いを言える利用者が多いので、言いやすい環境を作るように工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の好みに合った暮らしができるように勤めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態を把握し少しの変化にも対応できるように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護員を中心に話し合い、介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	担当介護員制を定着させ、1人が2～3人を担当している。担当者会議で明らかになった利用者、家族の要望やアセスメントシート、ケア記録を基に担当者、管理者が中心になって介護計画書が作成されている。家族にも報告され、定期的にモニタリングを行い、見直しもされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・介護記録・申し送り簿等スタッフで共有しケアに活かせるようにしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族のニーズに応えられるように、他の事業者(特養・療養型等)とも連携しその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	皆さんが生き活きと暮らせるように支援させていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの主治医・当診療所との連携を図り協力体制をつくり支援しています。	かかりつけ医の受診を基本としているが、事業所内診療所で適時受診することが出来ている。利用者の生活に関わる情報を伝えることで診療上の連携がされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師と連携し健康管理に努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院関係者とも連携を図り対応しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごしていただけるように、主治医や看護師と相談しながら支援に取り組んでいます。	契約時に終末期への基本的な考え方は話し合われている。殆んどはターミナル期に併設の特別養護老人ホームや病院に移動している。	事業所としての看取りの指針を確立し、行なうとなれば24時間対応可能な医師、看護師の確保や、職員研修を行うなど体制の整備が望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル(応急手当・対応)をホーム事務所内に掲げ意識付けをしています。また、園内研修にも積極的に参加し実践力を身につけるようにしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に変更しています。緊急連絡網も目立つ所に貼りだし意識を持って努めています。また、地震や災害時における園内研修も行っています。	地元消防署の指導のもと、地域の防災訓練に参加したり、年に4回隣接の施設と合同や夜間想定も含め避難訓練を実施している。非常食も備蓄され、スプリンクラー、火災通報装置の設置と緊急時の連絡網が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員で取り組んでいます。	併設施設の合同研修やグループホーム独自の勉強会でプライバシー確保や個人情報保護の徹底が図られている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で対応し利用者を尊重するように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを知りその人に合わせたサービスの提供に努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ・整容には注意し支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や好みに合った食事の提供に努めています。準備から後片付けも利用者と共にしています。	楽しい食事の基本は手作りのだし汁と調味料にあるとの考えで、毎食の食事担当の職員全員の努力で手作り食、味付け、盛り付けがなされている。近隣農家からの野菜の提供や、自家菜園の収穫物を利用し、後片付けを利用者が手伝っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量も記録し支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや義歯の洗浄等個人にあったケアを行っています。週に1回歯科医による口腔ケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握しその人に合った排泄用品で心地よい自立支援に努めています。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを知り、声かけをこまめにしたり、リハビリパンツ、尿とりパット、夜間ポータブルトイレを使用するなどの対応でオムツ使用者は居ない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給・適度な運動・食事の内容にも拘り便秘の予防に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいますが、希望や必要に応じて柔軟に対応しています。	2日に1度、昼3時頃からと一応の決まりはあるが、毎日入浴したり、仲良しさんが2人で入ったりと柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息できるように環境を整えています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を理解し医務室とも連携を図り支援をいています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせた対応を行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には買い物・散歩等出掛けるようにしています。遠足・買い物等は家族様の協力もお願いする時もあります。	週に2回スーパーへ職員と一緒に買い物に行くが、天候の良い日は近所を散歩している。毎日の新聞取りや園内の行動範囲で支援している。ドライブや近隣地区のお祭りや行事に参加することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてお金を預かり希望に応じて使えるように支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話も設置され自由に電話をかけたり手紙のやり取りができる環境にしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活が家族様にも見えるように色々な作品を展示し季節感を感じていただけるように、楽しい雰囲気作りに努めています。	利用者や職員の力作を廊下に飾り、あちこちにソファを置いてくつろげる空間を作っている。食堂の周りは緑が多く、ベランダにはプランターが置かれていた。併設の特別養護老人ホームにも廊下でつなぎ、傾斜地をうまく利用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには3ヵ所ソファを設置し思い思いに過ごせるセッティングに配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の好みや希望を取り入れて過ごしていただいています。	和室と洋室があり、ベッドやたんす、テレビ、冷蔵庫、写真、カレンダーなど好みの部屋づくりをしている。収納場所がないので、季節に合わせて布団や衣類の入れ替えが必要で、それが家族との交流にもなっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・台所・風呂の場所等はわかりやすく、安全に過ごしていただいています。		